



公州通信 10月号 架け橋 加配



ジュニア交流隊の歴史

1993年に市が韓国公州市と姉妹都市を締結した2年後、山口JCと公州JCが姉妹JCとして縁組を結び、市の委託を受けて「山口・公州ジュニア交流隊」事業が始まりました。

かつての百済王国の都として栄え、武寧王陵など多くの文化財が残る歴史・文化の街、公州と山口が姉妹都市になったのは、大内の始祖が百済第26代聖明王の第三王子・琳聖王子であると伝えられていることからです。

今年で第16回となる「山口・公州ジュニア交流隊」ですが、当初は交流活動の一環として「公州ちびっこ交流隊」として企画され、山口のちょうちんまつりを見学したり、キャンプを行うなど様々な交流活動が行われてきました。隔年でお互いの都市を訪問し合っており、公州ではのり巻き作り等、山口では大内塗りの箸作り等の文化体験やホームステイを通して、国際理解を深め、友情を育み現在に至っております。

第16回山口・公州ジュニア交流隊

- 第1回研修会 青空天国いこいの広場にて、入学式・韓国伝統文化体験
- 第2回研修会 山口県国際交流員 辛先生による 歴史・文化セミナー
- 第3回研修会 山口大学留学生による 語学セミナー
- 補講(5回) 公州市で披露するダンスの練習
- 交流本番1日目 壮行式。下関よりフェリーにて海を渡る
- 2日目 釜山博物館で日韓歴史展示物を見学。新幹線で公州へ。教育庁にて歓迎式。キャンプファイヤー。
- 3日目 文化体験(凧作り・班対抗チャギチャギ・両国伝統衣装)。両国ダンス披露。ホームステイ。
- 4日目 ホームステイ
- 5日目 歓送式。天安にてウォンで買物。仁川空港から帰国。
- 事後研修会 公州の友達へ手紙作成。卒業式(1人ずつ公州通信発表)。意見交換会

9月4日・5日釜山にて、反省会を行いました。

公州JC イ・ヨンスン 会長

これからも、持続的な会議、疎通を通して活気が溢れる交流のため、未来を準備していきたいと思えます。

青少年分科委員長 キム・ヨンジュン

沢山学んで、色んなことを感じました。もっと成長して必ずまた会いましょう。

山口JC 大庭 典夫 理事長

電話、ファックス、メールと便利なツールは沢山ありますが、目を見て、膝を突き合わせて話すことがとても大事であると痛感しました！未来に期待します。感謝！

国際交流委員会委員長 梶谷 優子

何でも話せる関係を作って頂いた先輩方に感謝しています。これからも1つのロムという気持ちで、一緒に歩んでいきましょう。大変だけど楽しい1年でした。トマンナヨ。

「山口市民・公州市民の皆さまへ」

山口市と公州市は、サッカー大会や市民を中心とした訪問団による百済文化祭への参加など様々な姉妹都市交流を行っています。山口・公州ジュニア交流隊もその中のひとつです。

このような盛んな交流は、日本と韓国の距離感が少しでも近づくことを、両市民が望んでいるからこそ継続しているのだと思えます。

ジュニア交流隊には、姉・兄に続き自分も参加しました。小学生の時はホストファミリーとして、中学生の時は親善大使として、そして専門学生となった今、スタッフとして参加し、また公州の方と交流ができてとても嬉しく思います。

今後も交流を続けて、若者でなければできない事を通じた交流を通じて続けていくべきだと思います。更なるOB・OGの参加も呼びかけていきます。

ジュニア交流隊OBOG会 澤谷麗美

「山口・公州ジュニア交流隊卒業生の皆さまへ」

今年の夏、私は山口・公州ジュニア交流隊の卒業生として、第16回山口・公州ジュニア交流隊に参加しました。

生徒として参加した、中学生のときに感じた喜びや感動とは違う、喜びや感動を味わうことができました。中学生のときは、緊張して自分のパートナーと接する事で精一杯でした。しかし、今回は写真を撮ったりとたくさんの山口市・公州市の中学生と接する事ができました。また、中学生だけでなくJCの大人達ともたくさん接して、たくさんの事を学びました。

今回ホームステイした家は、中学生のときのパートナーの家でした。まさかの再開でしたので、とても嬉しかったです。これからも連絡を取り合って、友好関係を深めたいと心から思いました。

学校の友達など、身近な人に韓国・公州市のことを伝えて、もっといろんな人に公州市を知ってもらいたいです。

ジュニア交流隊OBOG会 岩本沙穂

姉妹 JC 15周年の軌跡

山口・公州ジュニア交流隊は、
山口 JC と公州 JC の熱い思いと友情で引き継がれています。

	公州 JC 会長	公州 JC 担当委員長	山口 JC 理事長	山口 JC 担当委員長
第1回	キム・ウォンヨン はじめは、難しい事も多かったけど16回目まで、続き感謝です。両国の文化の差が縮められてよかったです。	ハン・ゼヒ 両国の青少年たちが喜ぶことをみて、私も楽しむことができました。	梅林 義彦 国際化の流れの中、国際交流は必然であった。経済人としてこの事業で学ぶ事も多く、一步を踏み出せた事を誇りに思う。	川上 雄司 感受性の強い小学生の時期に、都会と田舎の子どもの国際観格差を無くしその後の人生に役立てて欲しいと思った。
第2回	キム・ソックウォン お互いによく知らなかった文化を理解しながら、友情を築きよかったと思います。	イ・ヒジン 惜しいところも、後悔もあった交流でした。もう一度メンバーとお酒飲みながら交流したいです。	森生 信雄 初めてのお迎えバージョンであった為、責任感の重圧に押しつぶされそうになりながら事業を進めていった。	野田 文彦 初めて日本へ迎える事業に、山口市・教育委員会等様々な協力体制の下楽しいひと時を子どもと一緒に過ごせた。
第3回	パク・ギヨン 両国の文化交流を通じて、お互い理解できる場でした。さらに青少年たちが持続的に付き合っていたらと思います。	キム・ホンヨン 大変なこともあったけど、日本を知る機会になりました。	山本 龍隆 人と人との垣根を越えて未来ある子ども達に、地球市民としての自覚を持って共生していくことを願い行った。	岡部 達矢 言葉のコミュニケーション、世界観、視野の広さなど考え小学生の交流から中学生に切り替えた。
第4回	ベ・ビョンギ お互いに学べるよい交流でした。良いところを参考にし、さらに良い交流ができるようにしたいです。	ソ・ジョンヒョン 両国の生徒たちの笑顔を見て、とても嬉しかったです。もうちょっと頑張ったらよかったですと思いました。	中井 敏志 日本に一番近い国との交流を大切にしたい、また、国同士が仲良くすれば戦争をする必要がない事を子ども達に伝えた。	長富 泰司 韓国経済危機で山口訪問が危ぶまれた為、奮起し公州開催へ変更。関係各所へ熱い思いを伝えホームステイ実現。
第5回	ファン・ゼウォン 深い話をしながらお互いの心を知っていく良い機会になりました。	キム・デス 持続的に交流が続き、国家間理解できる懸け橋になったらと思います。	木村 太一郎 1対1のホームステイにこだわった。結果、子ども達は馴染むのが早く、友情に国籍は関係無いことを証明してくれた。	工藤 卓也 一生忘れないシーン作りに初めてチャレンジ。その「キャンプファイヤー」では火の神役の木村理事長が火事になった。
第6回	キム・ホンヨン 両国間変わらない心で交流をしていきたいと思えます。	シン・サムヒョン 交流を通して友情を築く良い機会になりました。	多々良 健司 本事業に携わり、本事業を通じて、仲が深まり、馴染んでいく。より一層という姿勢で取り組んだおかげで更に深化した。	頼近 健吉 当時、韓国の一部には反日感情があったが子どもも大人も同年代との深い付き合いが大切との共通認識が持てた。
第7回	ノ・ジョンハ 両国生徒たちの友愛と友情を深める場でした。	キム・フンギョム 持続的な交流を通して、もっとお互いに理解できるようになったらと思います。	磯部 雄一 教科書問題で子どもの交流は4月に中止が決定したが、5月に磯部、川上、今井の3人でソウルにて公州 JC メンバーと交流。	今井 守男 公州との交流は中止となったが山口の中学生24人は数回の研修会を行い、きらら博の会場でも研修会を行った。

第8回	キム・デス 両国間文化、経済、観光など社会全般にかけて交流できました。	イ・チャンゼ 青少年たちが両国の文化を接することができる良い交流でした。	瀧川 勉 委員長の思い実現の為、フォローに徹した。公州メンバーの心の広さ、会長の奉仕の精神を感じるおもてなしを受けた。	仲 典子 ドッキリ企画で初めてアトラクを披露した。子供プールは貸し切りになっており、とても楽しかった
第9回	キム・ムンス お互い信頼と理解を深める成果が得られました。	オム・スンチョン 両国間変わらない心で親近感ある交流を続けたいと思います。	岡部 達矢 山口で迎えるなら海！という同じ思いで委員長が計画してくれたが台風のため予定変更し試練の年であった。	水田 徹郎 初理事でがむしゃらに取り組んだ。終わって振り返ってみるとこれまで継続されてきた意味がわかった。
第10回	イ・チャンゼ 同伴協力関係になれる土台になる交流でした。未来のためのよい投資だったと思います。	ジョン・ワンシク 斬新な素材を研究し、文化体験の場として発展させていきたいです。	松西 康成 お互いの相手（仲間）を思う気持ちがあれば何とかなるし、この事業を通して知り合えた人々は私にとって一生の財産です。	大西 寛文 一人ひとりの友情から生まれたかけがえの無い種は国際交流という大輪の花を咲かすという思いで行った。
第11回	キム・フンギョム 民間交流大使として成長していく青少年たちに豊かな経験をさせ、両国の関係を深めた場でした。	ジョン・ノヨン アトラクションを通して楽しく交流でき、小林分科委員長と楽しむことができてよかったです。	木下 慎一郎 姉妹締結10周年！交流から友情へ。外交問題に関係なく開催できた。両JICの絆を確かめる上でも意義ある一年だった。	小林 英樹 竹島問題でギクシャクとした中、キム会長と木下理事長の固い絆で交流隊も無事成功。50周年に花を添えた。
第12回	チュ・ドンヨン 交流隊の生徒たちとメンバー皆グローバル人材に成長できる交流でした。	イ・ヨンスン お互い理解できる楽しい交流でした。	西 隆之 単年度制であるJICの組織において、その年度の理事長同士である巡りあわせ、縁を感じながら交流した。	杉本 理恵子 日韓の未来像を描いた演劇「mirai」を熱演し、公州の人々から称賛を浴びたとき、新しい歴史は創れると体感した。
第13回	ハン・ジョンドン 故郷のような暖かさ、綺麗な自然を経験し、沢山学べました。	キム・サンオ お互い交流を通して親しくなりとても楽しかったです。	田原 文栄 歴史のあるジュニア交流隊という活動をずっと繋げていくためにまずは会長同士が仲良くすることを大切にしたい。	藤村 一憲 台風によるスケジュール変更が大変だったからこそ、終わった後にメンバーとジュニア交流隊について話すのは楽しかった
第14回	ソ・ビョンチャン 交流を通して青少年たちが未来の主人公になれる交流の場でした。	イ・サンイル 両国の変わらない文化変化を続けていきたいと思えます。	大枝 博幸 子どもだけでなく大人も「おもてなし」の心の違いが実感できる。皆違って皆良い。機会があれば是非行って欲しい。	永藤 利明 OBOG 中西作曲、現役生徒作詞による歌を披露。交流ナイトでの14を象ったロウソクが紡いでいく感動を得た。
第15回	チュ・ウンホ 日本の家庭文化を直接経験でき、世界を見る視野を広げることができました。	イ・チョレン もう一度メンバーのみんなと会いたいです。機会があれば楽しく交流したいと思います。	中村 聡 15年目という節目の年。過去にとらわれず、今後の子ども達の為に山口市にとってのこの事業の意味を考えた。	古田 伸太郎 新型インフルエンザで交流が危ぶまれたが、広域で様々な団体と絡めた。おもてなしの気持ちを学べた。

そして架け橋は続いていく・・・

